

## **千姫：戦争で記された幼少期**

### **家族の競争相手との幼少時の結婚**

千姫(1597－1666)は1597年に京都の近くで生まれたが、それは絶え間ない暴力の時代の終わりであった。1世紀以上の間日本は内戦状態であった。それは機能する中央政府がなく、地域の武將がこの島国の支配権を求めて戦い合っていたのだ。しかしこの長く血なまぐさい争いは終わろうとしていた。そして千姫の家族が勝者として現れてくるのだった。

千姫の祖父は徳川家康(1543－1616)で、徳川幕府(1603-1868)の創始者であった。千姫がまだ赤ちゃんだったとき、家康の主であった豊臣秀吉(1537－1598)の息子と婚約させられていた。その当時秀吉は日本で最も権力のある男だった。しかしながら彼は病気で、彼の最も重要な支持者であった家康が自分の死後、息子に歯向かうだろうと心配していた。結婚を通して家族を一つにすることで、秀吉は家康が忠誠を守ってくれることを祈った。しかし計画は失敗に終わった。秀吉が恐れたように、結局家康は権力を手に入れた。しかし結婚は1603年に先立って行われ、同じ年に家康は将軍になった。千姫は6歳で新郎の豊臣秀頼(1593－1615)は10歳だった。

### **悲劇と再婚**

徳川家康は今や全日本を支配した。しかし彼の支配に対する一つの脅威が残っていた。千姫の夫の秀頼だった。豊臣家にはまだ少しの支持者がいて、豊臣家は大阪の最後の一つの牙城を保持していた。家康は1615年彼らに対する最後の動きを始め、大阪城を攻撃しそれを焼き落とした。彼の軍隊は戦いの間に千姫を取り戻した。彼女は家康に夫の命を助けるよう嘆願したが、彼女の祖父は秀頼に自殺するよう強要した。1年後、千姫は本多忠刻(1596－1626)と結婚した。彼は忠実な徳川の同盟の一族の相続人であった。彼女は新郎の父が1617年に藩主にされたとき姫路に転居した。城はその新しい占有者を収容する目的で、姫のための特別な住居である武蔵野御殿を正門(大手門)近くの三の丸に建設させて拡張された。

### **千姫の家系図**

姫路城の挿し絵の入った図の一部、大手門と武蔵野御殿という屋敷を示している